

下市町新住にある吉谷木工所の副代表、吉谷侑輝(ゆうき)さん(31)は、ハウスメーカーに勤めた後、平成28(2016)年から、父の5代目代表吉谷良浩さん(60)のもとで、創業以来の三宝づくりの技術を生かしながら「神具から新具へ～桧の香りに包まれて～」をテーマに、新しい木工製品の開発に力を入れている。その努力が実り、女性目線で三宝の曲げの技術を使ったマルチボックス「八宝(HAPPO)」が、今年3月にあった「にっぽんの宝物JAPANグランプリ」全国大会の工芸・雑貨部門でグランプリに輝いた。その他にも日用雑貨商品の開発に力を入れ、世界に販路の目を向ける。

Made
in
奈良

下市町 吉谷木工所

曲げの技術で
マルチボックス「八宝」が
全国大会グランプリ受賞



上に、この木はこの材料に使えるとかを考えないと、いけない。刃物が相手ですが、けがもできない。集中力がすごく要る仕事です。それに慣れるのに、1年ぐらいかかりましたね。父親とは一つ屋根の下、仕事上で、"ドンパチ"の毎日でした」と振り返る。

三宝の歴史は、今から約700年前の後醍醐天皇時代の南北朝時代（1337年～1392年）にさかのぼる。吉野遷都時に、献上物を乗せる台として作られたのが三宝の始まり。形が

双子の次男で、兄は公務員（奈良県警）。「私が継ぐ」ということは頭の片隅に意識していました。石の上にも3年以上は勤めましたから」と、1年間、奈良県高等技術専門学校の家具工芸科で木工の経験を積んだ。

吉谷木工所は明治43（1910）年の創業。今年で111年を迎える三宝づくりの老舗。吉谷さんは大学を卒業して、ハウスメーカー「グループ」のホームセンタ一事業部で販売部員として3年半働いていた。その半年前、父親から「こういう仕事は若い時から技を磨いておかないとダメだ。戻つてきてくれないか」と言わされたことが、木工所で働くきっかけとなつた。

全国大会グランプリ受賞のマルチボックス「八宝(HAPPO)」



5代目は三宝づくり、6代目の吉谷さんは新しい商品の開発と、住み分けしている。「今は女性目線で第二の使い方があり、コンパクトな商品が求められていい

今も昔と変わらないのが特徴。吉谷木工所の創業時は、三宝づくりと薬を調合・販売する薬種の仕事をしていましたが、次第に三宝づくり一本に。

三宝づくりの業者は、昭和50（1975）年前後のピーク時で30軒ほどありました。その後の機械化と後継者難もあって、今では県内で下市町に3軒、大淀町1軒の計4軒のみ。全国でくつても愛知県に1社あるのみだ。「床柱の銘木屋」が減っているのと同じで、近年はマンション住まいが多くなり、建築様式が変わってきました。三宝も同じようになっています」と話す。

三宝づくり創業111年目の老舗 女性目線で日用雑貨商品開発、販路を世界へ

普段は一枚の桧の板。それに曲げのスリット(切り込み)を0・7ミリ残して入れる。深すぎると折れ、淺すぎると曲がりにくい。桧の独特的の粘り気でしなやかに曲がる。艶(つや)があり、いい香りもする。「杉だとササクレが起きる」といいます。絶妙なラインに花道を見つけないといけないので「」と力が入る。

トングも「TONGI(トンギン木)」の商品名で開発した。トングは鉄もあれば木もある。柄は木でもバネの部分が鉄というのが多い由

ると思っています。試作から完成まで半年を費やして仕上がったのが、グランプリ受賞作品です」と誇らしげに話す吉谷さん。

その上で「この商品は高さ30㌢の八角形をしており、「八」は末広がりで縁起の良い数字。八角形で作って、寝かせておくと小物入れになったり、立てるところごみ箱にも。一つの部屋でインテリアオブジェとして使えるものを、と開発したのです」と目を輝かせる。

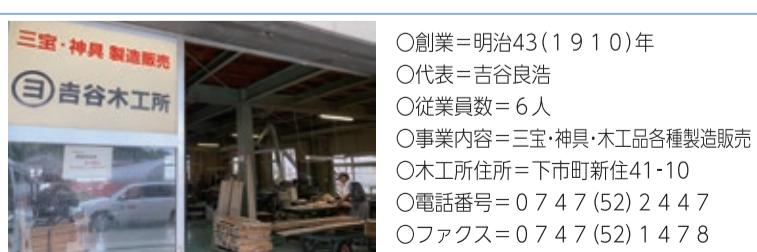
手に使えるという利点がちがう。「それで女性や若い人の心をわしづかみですね全部木なので、エコにつながるじゃないですか」とも、「トン木」のほか、お茶葉子やブレスレットの小物、れなど、さまざまな用途に使用できる「ペントアボックタス」(5角形)や「ハニカムボックス」(6角形)などがある。日用雑貨品に着眼した開拓を向けて作ることで、日本の百貨店や世界も視野に置いて、販路拡大を狙っていく。現在、カナダやアメリカで日本の工芸品を卸す会

にあつて、一枚の木にござ
わり、「トン木」と名付けた
「触ると、しなやかさが伝
わります。絶妙なスリット
の数と0・7^ミ残しで、こ
のしなやかさを出してい
のです」と。

社とも商談中とか。マルチボックスの底がついていないバージョンを猫を入れる「ペットハウス」として今夏に出荷を予定している吉谷さん。将来の夢は「三宝だけしか作れないではなく、「あそこに頼めばなんでも作れる」と言われる木工所を目指したいですね。お客様で、一度断られたら『もう、あそこには頼まんとこう』となるのが今ので時世じゃないですか。そこで潔く引き受けたらファンになってくれます。そのファンを増やしたいがために、一度断るんじゃなくて、『できます。なんでもできます』と言える歴史ある木工所を目指した次代に継承していくアライドを垣間見せた。



商品名「TONGI(トン本)」(写真右)や小物入れ



- 創業=明治43(1910)年
 - 代表=吉谷良浩
 - 従業員数=6人
 - 事業内容=三宝・神具・木工品各種製造販売
 - 木工所住所=下市町新住41-10
 - 電話番号=0747(52)2447
 - fax=0747(52)1473